

福岡の人口増加の実態

山本英輝

1、背景

図1は各政令都市の人口増減数と人口増減率を比較したものだ。2位の川崎市に大きく差をつけて、福岡市がともに1位となっている。図2は福岡市の人口動態を表している。社会増減と自然増減は同数程度での増減であったが、2011年を超えて社会増減が急増し、それが継続している。福岡市は日本で一番人口が増えている都市であり、他地域からの転入が多い。図3によれば2035年まで増え続ける見込みである。

人口増加の理由としてあげられているのは、住みやすさである。都心の近くに空港や港、居住地が広がり、また海や山も近い。また物価の安さもあるようだ。

近年の人口増加につながるような住みよい街がどう発達してきたのか、また福岡のこれからの発展の様子を考察するため、福岡の都市の変化や他の都市との差を見ていこうと思う。

都市名	平成27年10月1日時点人口（国勢調査）	平成22年10月1日時点人口（国勢調査）	人口増減数		人口増減率	
			増減数	順位	増減率	順位
札幌市	1,952,356	1,913,545	38,811	4	2.03	5
仙台市	1,082,159	1,045,986	36,173	5	3.46	3
さいたま市	1,263,979	1,222,434	41,545	3	3.40	4
千葉市	971,882	961,749	10,133	10	1.05	9
横浜市	3,724,844	3,688,773	36,071	6	0.98	10
川崎市	1,475,213	1,425,512	49,701	2	3.49	2
相模原市	720,780	717,544	3,236	13	0.45	13
新潟市	810,157	811,901	▲ 1,744	15	▲ 0.21	15
静岡市	704,989	716,197	▲ 11,208	19	▲ 1.56	19
浜松市	797,980	800,866	▲ 2,886	17	▲ 0.36	17
名古屋市	2,295,638	2,263,894	31,744	7	1.40	7
京都市	1,475,183	1,474,015	1,168	14	0.08	14
大阪市	2,691,185	2,665,314	25,871	8	0.97	11
堺市	839,310	841,966	▲ 2,656	16	▲ 0.32	16
神戸市	1,537,272	1,544,200	▲ 6,928	18	▲ 0.45	18
岡山市	719,474	709,584	9,890	11	1.39	8
広島市	1,194,034	1,173,843	20,191	9	1.72	6
北九州市	961,286	976,846	▲ 15,560	20	▲ 1.59	20
福岡市	1,538,681	1,463,743	74,938	1	5.12	1
熊本市	740,822	734,474	6,348	12	0.86	12

図1

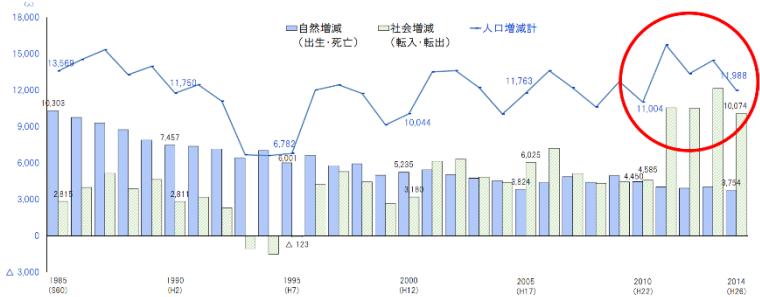


図2 人口動態

福岡市より引用

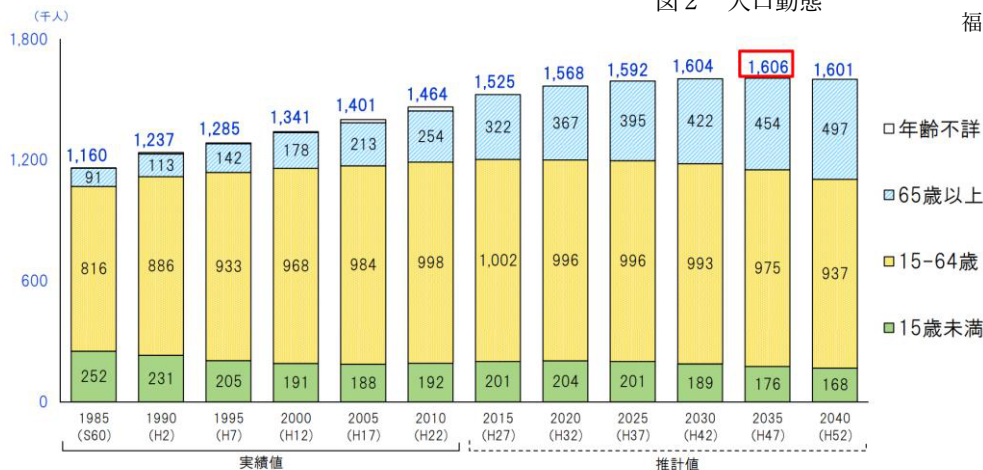
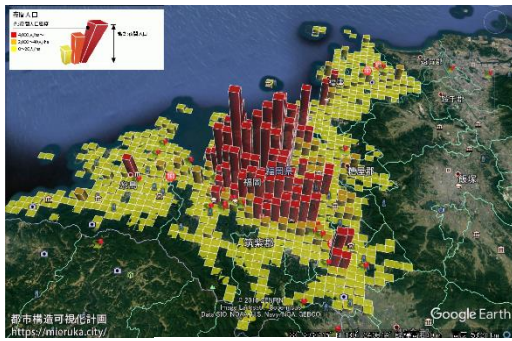


図3 人口推移と人口推計

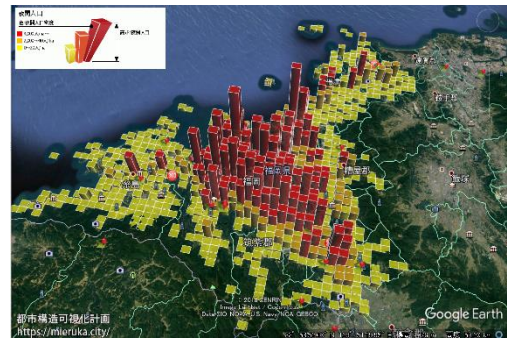
福岡市より引用

2、福岡都市圏の人口推移の分析



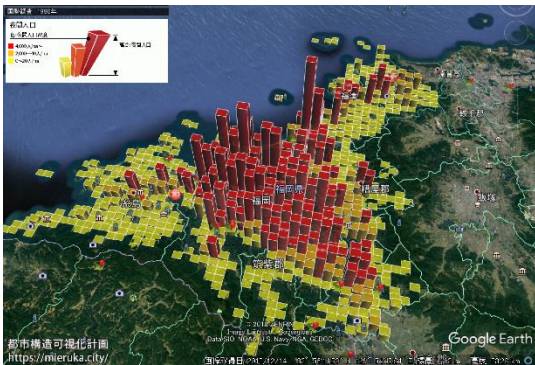
1970年

博多駅周辺と、別府・六本松付近に山がある。六本松は交通の結節点であり、九州大学六本松キャンパスがあった。(2009年伊都へ移転)



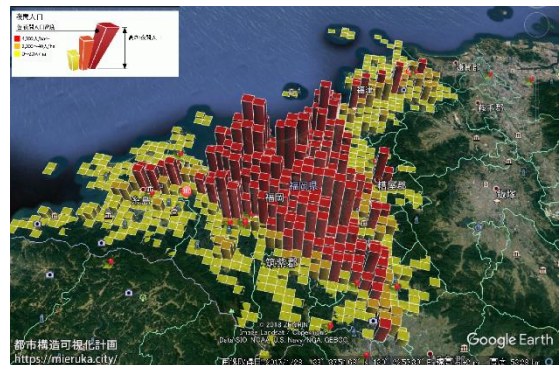
1980年

南に居住地が裾野を広げ、東では香椎付近の山が大きく成長している。西も下山門付近まで広がる。この年代で大きく人口が増えている場所は団地ができたところである。鉄道の沿線上に居住エリアが広がっていく。



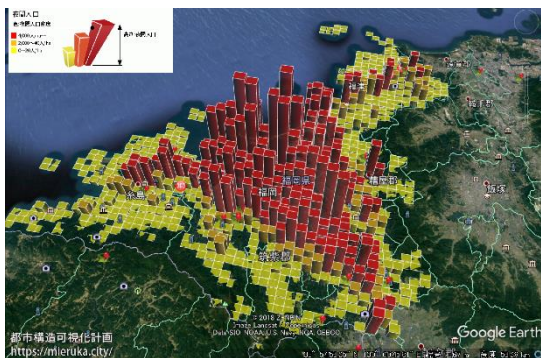
1990年

香椎がさらに成長。福岡での最過密地域となっている。博多駅周辺が中心性を強く持ち出す。



2000年

都心が全体的に人口増、逆に香椎より東側は人口が減少している。都市圏が二日市エリアまで広がる。



2010年

博多・天神周辺がさらに成長しており、全体として都心を中心とした山な形になった。JR 鹿児島本線、西鉄天神大牟田線、福岡市地下鉄空港線、JR 筑肥線など主要鉄道の沿線に都心に近い箇所から人口が多くなっている。

古くは、人口増加に伴う団地の形成により都市を発達させてきた。特に香椎地域はベッドタウンとして非常に大きな人口を抱えていた。近年の動態としては、西に増加の傾向があるが、都心を中心とする一つの山の形のまま全般的に成長している。

2、若者の流入

日本では少子高齢化が課題とされているが、福岡はどうだろうか。図3からわかるように現在のところ福岡では少子高齢化は進んでいない（今後表れてくるようであるが、）しかし、図4を見ると、郊外や鉄道の通っていないエリアには局所的に高齢化の兆しが見られる。

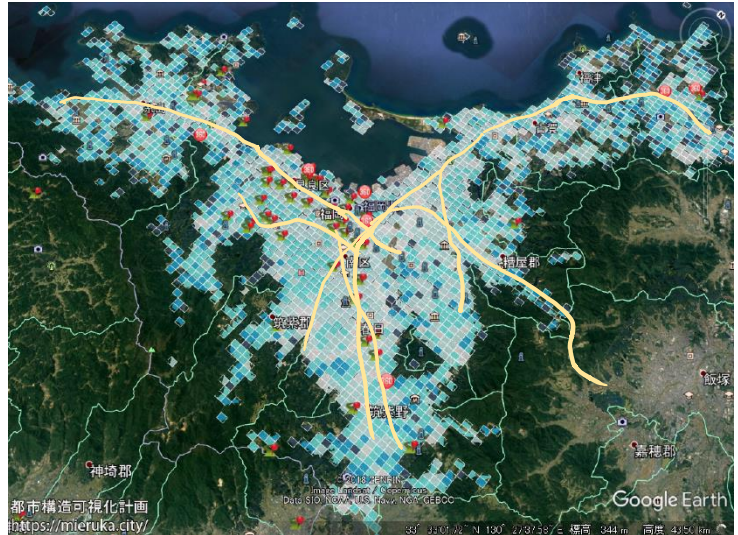


図4



図5

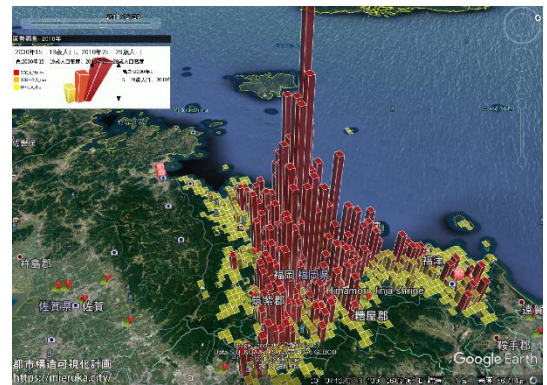


図6

図5は2000年、図6は2010年の福岡市の若者の居住地を表している。2000年には鉄道の沿線上に均質に広がっているが、2010年には完全に都心（天神・博多）を中心とした山ができています。10年でこの変化は驚きであり、これが福岡市の人口増加に大きく関わっていると考察できる。

図7は昼夜間人口比率を表すが、通勤通学先に若者がより移住していることがわかる。今まで福岡近郊に住んでいた若者たちが、仕事をしに福岡市の中心地へ出てきて、より便利な中心地に住居を構えているのが福岡の人口増加の要因である。これは広い範囲で見ても同じことが言え、人口が減少した市区の1位は北九州市、2位は長崎市となっている。佐賀県はどの都市も人口が減少している。

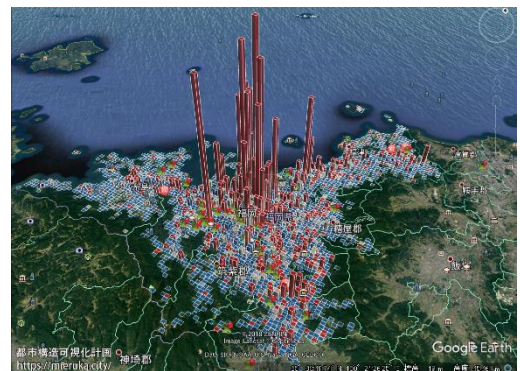


図7

図7の中心地ではない場所の山は大学のあるところである。かなりの数の学生が移動しているが、この学生たちも大学の近くではなく都心に近い位置を好む傾向になっているのではないと思われる。

3、他の都市圏との比較

東京・大阪・愛知・札幌の都市圏の人口分布と比較してみる。

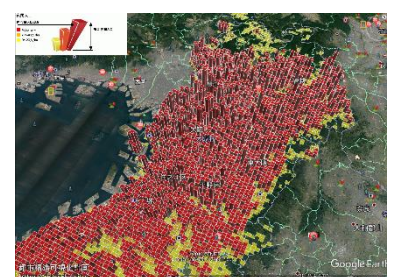
福岡と他都市の決定的な違いは、平野の広さだ。海、山に囲まれ今現在で都市の広がりとしては限界を迎え、いびつな形態をしている。東京・大阪は広い平野を有し、そこに多核的に都市が広がる。名古屋はわかりやすく都心から同心円状に人口が分布している。札幌はまだ平野に広さがある。この平野の狭さのため、東京・大阪・名古屋のように広く絡み合った交通網を作ることは難しい。直面する壁ではあるが、これは福岡がコンパクトシティである一つの理由であり、逆に他の都市圏にない魅力ともなっている。



福岡都市圏人口分布



東京都市圏人口分布



大阪都市圏人口分布



名古屋都市圏人口分布



札幌都市圏人口分布

4、まとめ

福岡は他の都市に比べて地理的な制約を受けており、結果的にその制約がコンパクトシティへとつながっている。そして近年見つめなおされ、少子高齢化の社会の中人口の伸びを見せている。福岡は南北の広がりに加え、他のまちにはない東西への線上の広がりを見せる。西の糸島市付近から都心まで1時間とかからないことから、東京のベッドタウンと比較して全く通勤に問題ない距離、交通を持つ地域がいまだ可能性を残している。福岡がこれより大きくなるのならば東西への広がりとなるだろう。東の香椎周辺は、かつては博多周辺と同等の人口規模を持っていた。南側、西側の人口の視覚的なボリュームに対して東側はまだ可能性を感じられ、現にそのようなポテンシャルを持っている。交通の利便性もあり、大学がいくつか存在する東区には拡大の余地があると考えられる。

参考文献

・福岡市人口ビジョン（素案）

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/49519/1/jinko-vision-soan.pdf?20181128132613>

・福岡 TOUCH

<https://fukuoka-touch.net/population>